

令和8年度 北陽中学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：32004

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市の共通指標のアンケート項目において、「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の意見を見直すことがある」の肯定的な回答が9割を超えている。これは多様な他者と協働的に学びを進めることが生徒にも肯定的に受け入れられており、自分の考えを深化させることに繋がっている。</p>
	<p>◇札幌市の共通指標のアンケート項目において、「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」や「自分で考えて計画を立てて勉強している」という項目で、肯定的な回答が7割を切っているため、目標や理想の自分の姿に向けて主体的に自己調整を行っているとは言い難い状況にある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇札幌市の共通指標アンケートにおいて、「人のよいところを見付けようとしている」「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目では、肯定的な回答が9割を超えている。また、「自分にはよいところがある」の項目も8割近くの生徒が肯定的な回答をしていた。一方、「自分が必要とされていると感じる」の項目では、肯定的な回答が7割程度と令和6年度とほぼ変わらず依然低い傾向にある。このような生徒の状況から自己肯定感が高いといえるが、誰かの役に立っているというような自己有用感の醸成が不十分であると考えられる。また、「自分の意見を進んで発言しようとしている」生徒も6割程度なので、今後の学びの中で、主体的に社会に関わり、自分が周りや社会に必要とされていると生徒自身が実感できる姿を目指す必要がある。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分の取組が社会の形成に繋がっていると考えられる力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>◇研究主題「自己有用感を高める学び」の実現</p> <p>(1) 学んだ知識が実際に社会とどのように関わっているのかを考える実践</p> <p>(2) 自分の関りがどのような影響を与えるのかを体験できる授業の構築</p> <p>(3) 発信力が高まるような授業の工夫</p> <p>(4) 自己有用感が高まるような学年での取組</p>	<p>①3年間を見通した学級・学年活動の計画性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年は「自分たちの意思を実現する」 ・2学年は「自分たちの問題を自分たちで解決する」 ・3学年は「自分たちの行動に責任をもつ」 <p>②行事での振り返り活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google フォームなどを活用した振り返り ・キャリアパスポートの活用
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇主に各教科の授業や様々な行事の準備段階や上記(1)や②において、複数のツールの中から適当なものを、生徒が自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前指導の機会を設けていきたい。</p> <p>◇主に②について、Google フォームの各自の意見を集約し、ワードクラウドや生成 AI を活用するなど、限られた時間の中でも一人一人の意見や考えが反映する工夫に活用したり、オンラインでパートナー校の子ども同士の声をつなげられる機会を創出する。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

